

## ユスラウメ台を用いたもものわい化栽培

ユスラウメ台のももはわい化して枝梢管理が楽になり作業性が良く、若齢期から結実性が良好である。しかし、それだけに着果過多が主な要因と考えられるが、特に保水性の悪い土壌で樹勢が衰弱しやすく、枯損樹が発生して生産不安定になる。

このため試験場ではユスラウメ台によるわい化栽培において、樹勢を保ちながら高品質果実を生産する技術について検討しているところである。

川中島白桃を用いたこれまでの試験結果から、葉果比が50～180の範囲で、高いほど果実肥大が促進され、熟期が早くなり糖度も高くなることが認められた(図1、2)。葉果比の低い着果過多樹には、樹勢衰弱の傾向が観察されている。

樹勢を維持するには早めの着果調節が必要であり、高品質生産にもなるので、摘果は満開後40日くらいまでに行い、葉果比100程度にしておく必要がある。その際、葉が小さい場合は、さらに葉果比を増やす。また、特に



ユスラウメ台の  
主幹形川中島白桃

樹勢が衰弱しているものについては全摘果して樹勢の回復を図る。

なお、共台では品質向上をねらって、収穫前のマルチ等によって土壌乾燥を促すことがあるが、ユスラウメ台は糖度が比較的高くなりや

すいので、樹勢を維持するため成熟期も適度の土壌水分を保っておく方がよいと考える。

今後さらに継続調査して、ユスラウメ台のわい化栽培技術を確立したい。

(落葉果樹班：主任研究員 矢野 隆)

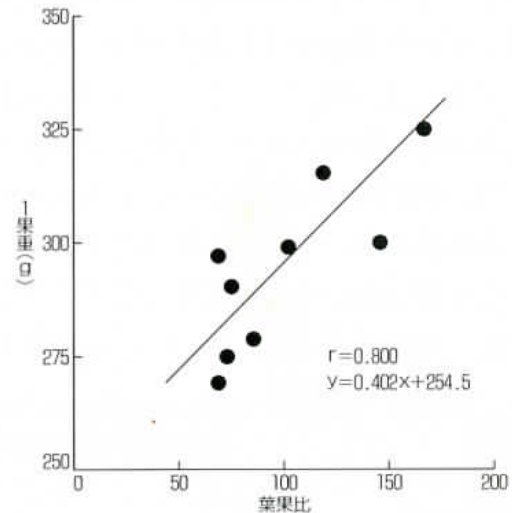


図1 葉果比と1果重(平成7年度)

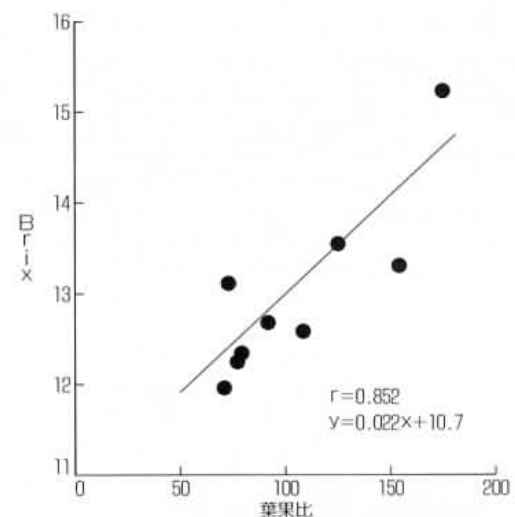


図2 葉果比とBrix(平成7年度)

編集発行 愛媛県立果樹試験場  
〒791-01  
松山市下伊台町1618  
TEL 089-977-2100  
FAX 089-977-2100